

※個人や企業が特定される部分、業務内容に関わる部分についてはCeFILで一部修正しています。

## 指導概要

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>部の3Grがそれぞれ持ち回りで、各Grの持っている案件に関連する業務・実習を行わせた。なるべくSEの各工程を満遍なく経験できるよう留意した。※その時のPJ事情で多少は偏りがありました※</li> <li>各実習の最後には発表会などで成果をお互いに確認して、インターン生の今後に役立てられるよう留意した。</li> </ul>
2	1対1でアドバイザーを設置することに加え、ペアプログラミングの手法で開発するなどサポート体制には配慮した。短期間ではあるが、若手社員と同レベルのアサインとし、企業でのシステム開発を体感していただけるような進行とした。また、学校ではなかなかできない経験や不明点の払拭などを中心にカリキュラムを構成した。
3	事前課題で、やってみたいことをお知らせいただきましたので、そのすべてを満たすために、業務内容をアレンジさせていただきました。1)iPhoneアプリを開発したい。2)多くの社会人の方とお話をする。3)スマートフォンアプリ開発のプロセスを体験し実際に役に立つものを制作する。パートナー様のライブラリを使用したAndroid/iPhoneアプリのプロト開発、お弁当予約システムの案件発掘と開発・テスト(商用)
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことがあれば必ず質問すること。質問は、実施する作業のゴール(納期、成果結果)を見据えた上で行うこと。そうすれば、意味の分からない、質問者の時間の無駄になるような質問をしなくなる。</li> <li>良いエンジニアになるために、マクロな視点とミクロな視点の両方を忘れずに。細部に拘りすぎると全体の目的を忘れがちになるが、細部をある程度知らないと、全体は見えてこないところもあります。など</li> </ul>
5	業務においては結果だけでなく、プロセスを重視するように指導しました。指示された内容をただ遂行するだけでなく、なぜそれを行うのか、行うことに何の意味があるのか等課題や問題の深堀りなど、問題解決能力を高めることを意識しました。
6	実験装置の取扱いや、注意点を説明し、実験の補助を実際にやって頂いた。得られた結果については、妥当なものなのか否かの見分け方を説明した。
7	作業を実行する上でのチェックリストの重要性、品質の重要性、納期意識
8	<p>実習内容に関するガイダンスの後、随時、進捗確認。</p> <p>定例(週一回)打合せ実施。</p> <p>実習内容をレポートにまとめてもらい、最終報告会実施。</p>
9	1対1でアドバイザーを設置することに加え、ペアプログラミングの手法で開発するなどサポート体制には配慮した。短期間ではあるが、若手社員と同レベルのアサインとし、企業でのシステム開発を体感していただけるような進行とした。また、学校ではなかなかできない経験や不明点の払拭などを中心にカリキュラムを構成した。
10	インターン期間のほぼ毎日、進捗確認と今後の進め方についてのアドバイスをを行った。アドバイスの内容は、プログラム作成にあたっての方針や実装詳細について、また、最終報告プレゼンテーションの作成や効果的な発表方法など。
11	個人で課題を抱え悩むことがあり作業進捗が遅延する場面が発生したため、適切なタイミングで報告・連絡・相談を実施するよう指導を行った。
12	プログラミングを基本として、その必要性(モチベーション)、課題の明確化、解決方法の事前評価、ソフトウェア製作の設計・コーディング手法の選択、既存のコードの活用、工夫のポイントを指導した。テーマ完遂に向けて実施期間を念頭に、学生の毎日の実施内容を毎朝協議することで、予定していた業務を着実に実行することができた。入社4年目の職員を指導員としてアサインし、職員の経験不足の部分については他の職員の支援を行った。今回の業務から、課題抽出と解決法の事前評価をソフトウェア製作の前に実施できるようになると、自ら新しい技術を習得してステップアップできると想像する。
13	Hadoop、JVM、OSの各レイヤーでのログを整形・集計するツールをJavaで作成して分析してもらいました。どのような分析が必要かの説明に基づいて、必要となる整形・集計ツールを自分で考えて実装しました。最終報告会では10数名の前で発表してもらいました。
14	<p>顧客から提供された実データをツールに取り込み、分析画面を作成。当社の製品での開発でしたが、非常に早く覚えていただき、与えた作業も手早く的確に実施していました。</p> <p>顧客に提出するドキュメントの作成も担当いただきましたが、その部分は本人も今後の課題と捉えていました。今後の経験によってカバーされると思います。</p>
15	システム企画・開発・運用までの一連の業務について、実務や演習を織り交ぜ体験してもらった。どのセクションにおいても、指導員を必ずつけ、業務終了後日誌等で1日を振り返るようにした。また、約1ヵ月で習得したことを、最終日にプレゼンしてもらい、どのような気づきがあったかを振り返ってもらった。

16	課題の進め方として、開発工程、開発ツールの使い方、開発対象の仕様について説明、指導いたしました。課題の内容については、プログラム言語の作法、使い方を指導いたしました。また、発表スライドの内容、話し方について指導いたしました。
17	インターンシップ経験者の若手社員を直接の指導者にアサインし、就業マナーや技術指導を実施しました。学生自身でインターンシップ期間の目標を設定し、成果を振り返りました。成果発表会を実施して、指導者以外の社員からも社会人としての心得や業務への取り組みについて、評価やアドバイスをしました。
18	若手研究員を指導員としてアサインし、担当する研究開発業務をチームとして進めました。期間の前半を背景知識理解と開発環境構築による技術習得を行い、後半に本テーマに関連した一機能の実装と評価を実施しました。また幅広い業務を経験してもらうことを目的に、所員向けに開催されたアイデアソンや勉強会、インターン生向けの所内見学会等にも参加し、業務理解を深めてもらいました。
19	日報作成(当日に修得できたこと、不明点を記載)を指示。その内容を踏まえ必要に応じて翌日以降の作業の方向性を指導。
20	毎日、定時前に夕会を実施し、業務遂行状況と今後の予定、抱えている課題について報告してもらい、その会議を通して業務遂行における指導を行った。
21	大目標のステップ分解についてアドバイスし、WBSベースでタスクに分解して、日々の計画をたて、日々管理していくよう指導した。業務のチームの一員として、チームリーダー、チームメンバーに指導員として導入研修してもらい、その後は、管理職のレビューと指導のもと、Weekly進捗ミーティングで報告してもらった。Linux理解など、アイデアを実践するために、理論だけでないスキルの重要性について理解してもらった。
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月の間で完了できる作業量のテーマを設定した。</li> <li>・業務着手を素早く行うために、受け入れ前に事前課題を提示した。</li> <li>・朝、夕に状況確認を行う機会をつくり、報連相の習慣づけと、進捗停滞を抑止した。</li> <li>・設計、報告作業を通じて、相手の立場に応じた資料作り、説明の重要性を伝えた。</li> </ul>
23	指導員としては、当社技術部門のシステムエンジニアを担当させました。学習アドバイスについては、口頭では随時、紙面では一日単位で日誌によるアドバイスを行いました。
24	<ol style="list-style-type: none"> <li>①業務着手前に開発対象のシステムの概要説明ならびに案件説明を実施</li> <li>②担当作業については指導員をアサインし、指導員のもと作業を一通り実演説明を実施</li> <li>③不明点があれば適宜説明を実施</li> </ol>
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に作業を行うこと。日々の作業の積み重ねが、実業務では顧客納期を守ることに繋がるため。</li> <li>・不明な点は、自身で背負い込まずに、先輩、チューターにまず聞いてみる。聞いてみることで、自身に何が(知識が、スキルが)不足しているかがわかる。</li> <li>・何度も同じ失敗をしないために、問題(プログラムのバグ)検出時は必ず振り返りを行うこと。</li> </ul>
26	PC1台(インターネット環境含) + 諸市場データソース。 上記環境下で2名の指導員 + 指導リーダー 計3名と定期的な打合せ(週2回程度)。 また、最終日にはプレゼンテーションルームにて関係者への発表会 + 講評。
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員を割当て、不明点の問い合わせを可能とした。</li> <li>・日々の作業を日報で部門全体へ報告させ、コミュニケーションをとり易くさせる為に部員との接点を用意。</li> <li>・淡々とした開発ではなく故意に仕様変更を発生させるなど、実際さながらの開発を企画。</li> <li>・成果報告本番前に資料を準備させ、事前レビューも準備の一つとして体験。</li> </ul>
28	アドホックプロトコルにおける経路制御のトポロジを表示させるアプリ開発を実施。流用元開発者を指導員としてアサインし、要求仕様を提示して、流用ソースの解析からの要求仕様に合わせた開発を行ってもらいました。
29	M2Mゲートウェイ装置に搭載するソフトウェアの試作開発を通じて、弊社のソフト開発プロセスを経験(仕様検討、設計、実装、試験、レビューなど)して頂きました。指導員としては3年目の社員を任命し、各工程レビュー、進捗報告を行って頂き、部門全員に対しても週報を出して頂いていました。報告内容や所感を踏まえて、報告書の記載方法、進捗遅延時の挽回策などアドバイスをしています。
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)およびプライバシーマーク認証</li> <li>・Work Breakdown Structure(WBS)によるプロジェクト管理の概要説明</li> <li>・Webアプリケーションの重要な脆弱性の原理と対策方法の学習</li> </ul>
31	テーマの背景となる技術概要、業務としての取り組み内容を説明し、業務の目的や狙いを十分に理解してもらった上で作業を実施してもらった。実際の業務でのプログラミング作業や実機検証作業においては、随時チームメンバーから技術支援を行い、問題点を解決しながら業務を遂行してもらった。
32	トレーナーをアサインし、適宜実習内容を説明した。業務はチーム単位で行っているため、今日取り組む(組んだ)内容や現状の課題点などがあれば、積極的にチーム内で共有すること。また、大学時代には与えられた課題に対して結果を出すことが多いと思うが、業務では使ってもらった利用者がいて成り立つもの、自己満足にならないように、常に相手を意識した資料作り、説明を心がけること。
33	指導員をアサインし、定期的に状況と結果の打ち合わせを行いました。そこで、今回経験できない作業等の話を捕捉で説明を行うようにしました。

34	BIツールを用い、公共医療向け分析の為の画面を作成する。 チームで0版を作成後、顧客と刷り合わせを行いながら次のバージョンを作成していく課程を学んでいただきました。
35	現地作業が佳境であったこともあり、対象者に対し個別プログラムを組むのではなく、実作業をこなす中で本人の目的に沿うものを受け入れ側で選んで与えました。本プロジェクトは、長期大型案件の比率が高いため、1ヶ月の中で設計開発からテストまでといった一連の作業を与えることは出来ませんでした。
36	課題の進め方として、開発工程、開発ツールの使い方、開発対象の仕様について説明、指導いたしました。課題の内容については、プログラム言語の作法、使い方を指導いたしました。また、発表スライドの内容、話し方について指導いたしました。
37	会社の取り組みの説明、具体的なテーマ、シミュレーション環境について説明後、実業務に着手。日々指導者より進捗確認と、課題や対策、業務の進め方などアドバイスを実施。社内最終報告に向け、指導者、GMよりプレゼン資料、発表についてのアドバイス実施した
38	専属の指導員1名アサイン、その他メンバ2名によるサポートを実施。 今回のインターンシップでは、1名での作業が主であったため、グループディスカッション等の複数人数での自己アピール面での課題がある可能性がある旨をアドバイスしました。
39	期間全般において業務指示かつ相談役となる社員をアサインし、日常的にコミュニケーションを取りながら業務を遂行してもらいました。また、前半の機能評価テストに関しては、チームメンバー全員(13名)の前で計画の発表、結果の発表を行い、フィードバックをしました。後半のプロトタイプ開発では、前述の社員に加えて、開発のメンバーを指導員としてアサインしました。最後、成果の発表を行い、フィードバックをしました。
40	(1) 当グループの業務内容や技術の紹介、(2) デモの開発にあたり必要なデモンストレーションの考え方及びデモ案の策定補助、(3) 最終日のプレゼンに対するチェック及び修正指示など
41	本人目標:PKG開発における開発手法、仕事で必要なスキルの見極め <ul style="list-style-type: none"> <li>•PKGを自身で動作させ利用者の観点より評価を行う</li> <li>•プロトタイプ開発を行う</li> <li>•積極的にコミュニケーションを行う(PKG会議・製品デモなど)</li> </ul>
42	実際の業務を体験するカリキュラムとし、当該業務におけるリーダークラスの要員を指導員としてアサインした。指導員によるマン・ツー・マンの支援・レクチャーを適宜行うことで、現場業務を支障なく遂行できるよう配慮した。
43	業務に適した指導者を2名アサイン。本人と会話しながら都度アドバイスが出来るようにした。
44	関連業務に従事する者を、直接の指導担当とした。 毎日何をすべきかを相談し、その目標に向けて実習を行っていただいた。
45	指導員としての職場先輩に加え、若手プロパを「伴走してくれる同僚」としてアサイン、同種の業務を学生の傍らで実施させた。技術系の職場で、通常は導入教育に時間を取られてしまうが、同じような悩みを克服したばかりの、すぐ上の先輩だからこそできる的確なアドバイスで時間短縮ができたと思う。
46	期間を通じて指導員を割り当て、複数のテーマで実習してもらった。事前に専門知識を持ち合わせていなかったため、最初に座学で当該技術分野の基礎知識を学んで貰い、その後、実際に実習してもらった。実習は事前シミュレーション、測定、結果のまとめという手順で行い、全体の中での実習の位置づけが分かるように心掛けた。